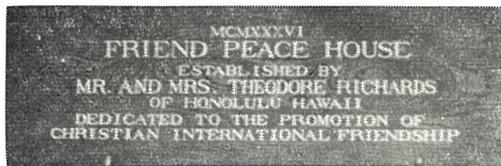


人 社 志 同 の イ ワ ハ



(額関寮イワイハ)

田 淵 潔

ハ ワ イ 遠 征

昨年末から今春にかけて約二週間、同志社大学ゴルフ部はハワイ大学との親善定期試合のためハワイ諸島に遠征した。寒い日本をはなれて常夏の島とか夢の楽園などといわれるハワイへ、しかも学生の分際でゴルフをやりに行くとは——外務省ならずとも一応はいろ眼鏡でみたくなる計画であった。近代オリンピック競技の創始者であるフランスのクーベルタンはスポーツの持つ世界性と純粋性によって相互の理解と認識は深まり、国際間の平和の基礎が確立されるものと信じてオリンピック復興の夢を実現したという。あえてクーベルタンを真似たわけでもないが、伝統と歴史のうえに充実してきた同志社大学体育会の学生たちに大きな目標と刺戟をあたえ、同時に海外の見聞に少しでも視野が拓められれば、まだ日本のどの大学も手をつけていない海外大学との親善定期交流をもくろんでみた。ハワイをえらんだのは、まづ地理的にアメリカ合衆国の第五十州であり、日本から一番近いこと、そしてまた昭和のはじめごろからフレンド・ピース・スカラシップ制度を

つくって大下前学長を先陣に沢山の第二セグループをスチューデント・プロフェッサーとして同志社大学に送りこみ、同志社と深いつながりをもっていることなどであった。さらにスポーツ種目も両方の普及度と技術的なバランスを考えると同時にチーム編成が余り多人数にならないことから、ゴルフをとりあげて、ハワイ大学と交渉をはじめたのが昨年の春ごろであった。実際に海をへだてて未知の両大学の交渉はなかなかはかどらなかつた。しかし、ここにも同志社のもつ国際性というか、あちらこちら、特にハワイ在留の二世の人たちの中に援助者があらわれて、やっとハワイ大学体育部長のY・S・コー氏の招待状が届き、さらに上野学長とハワイ大学ハミルトン総長の正式文書の交換となって今回の遠征が実現した。そして経・商・法・文学部から二名ずつ、ハンディキャップ1から9までのシングルプレイヤーの学生八名が代表となって渡布し、目的のハワイ大学チームに完勝したのち、オアフ島からカワイ島、マウイ島と招かれて九日間に八試合を行ない、七勝一敗の好成績で一月四日帰国した。この間、日米親善、ハワイ大学との交流のほか、学生スポー

ツとしてのゴルフと技術を十分に認識してもらい、学生も滞在中はすべてホームステイで各家庭の人たちとも親しくなり、二世、三世、三世の人たちの望外な欲待に見聞をふかめたことと信じている。ハワイでの見たり聞いたりの記を二、三しるしてみることにする。

ハワイのゴルフ

今回の遠征にゴルフをえらんだことは結果



羽田空港にて

的にもよかったと思う。他のスポーツであればハワイ大学との二試合で終わったかも知れない。ゴルフは、日本では金と暇と体力の三つを必要とする特殊スポーツとされているが、ハワイでは一年八ドルや月十ドルのパブリック・コースがあり、カワイ島ではおいてある箱にお志をいれておけばよい公園コースもある。陸、海軍も基地内にそれぞれ十八ホールの立派なコースを持ち、ホノルル附近だけでも十三ほどのコースがある普及ぶりである。一年中、快適な気候に恵まれ、勤務と余暇をわりきって各階層の人が楽しみ、八十才近い人までも毎日プレイしている。三十年以上のゴルフ歴をもった人も沢山いる。このように普及はしているが、ここにプロ選手以外のアマチュア・ゴルフアがチームとして訪れたのははじめてとかで、私たちは遠来の試合相手として歓迎された。私たちの到着が新聞やラジオでつたえられたその日から、こうしたゴルフ・クラブの試合申込が殺到し、私たちの練習スケジュールもすべて親善試合にふりかえた。二十二日から三十日まで島々をわたった一日を除いて毎日々々、異ったコースで各国、各層、各年令の人たちとゴルフを通し

て親しくなり、人種、職業、年令を超越したスポーツの純粋性をしみじみと知った。ハワイの最低賃金は学生アルバイトでも一時間一ドル二五セントであり人件費が非常に高いので、キャデイといったものではなく、プレイヤーはキャデイ・カートを自分で引くか、バギーとよぶ二人乗りの電池自動車でコースをまわる。傷めた芝なども各自で修理してゆく。学生ゴルフアとしての私たちのマナーや技術も高く評価されて、どこに行っても好評であった。また夜はこうした人たちの家庭に分宿して家族の人たちとの欲談にうるところが多かったと信じている。

ハワイの同志社人

ホノルルに着いたつぎの日、私たちはハワイ大学の坂巻教授から午宴会の招待をうけて、ワイキキ海岸のロイヤル・ハワイアン・ホテルで豪華な御馳走になった。ダイヤモンドヘッドを背景に真夏の太陽の下に、波乗り、水泳、日光浴に楽しむ人たちを見ながら歓談した。坂巻教授というの古い同志社人がよく知っている坂巻兄弟の弟さんの方の駿三氏で、昭和のはじめごろフレンド・ピース

・スカラシップによってスチューデント・プロフェッサーとして同志社に派遣された二世グループの一人である。兄さんのジョージ・坂巻氏、ハワイ大学のミノル・篠田氏その他の同志社に關係のある人たちには、ゆきちがっってお目にかかることができなかったのは残念であった。もう一人、昭和九年頃やはりスチーデント・プロフェッサーとして同志社で教えた人、相沢氏に会った。マウイ島でワイルク・ゴルフ・クラブに招待されたとき、相手クラブのメンバーとして参加され、一日ともにプレイをして京都のこと、ハワイ寮のことなどを話しあった。現在はマウイ島の教育委員会の副委員長といった格で元気に活躍しておられる。学生たちもこうした先輩から昔の同志社を聞き、現在の同志社を話して、楽しい交歓のときを過したことを何より思っている。また私たちと入れちがいに引退してハワイに帰られたヤング教授の顔のひろいにも驚かされた。どこの島にわたっても、同志社といえはクジションセンクは どうしている、元氣かとなぞねられた。ハワイと同志社をつなぐ同氏の功績も忘れてはならないものだと思う。さらに私は十二月三十一日の午

後、パシフィック・クラブでハーバート・M・リチャーズ氏に会うことができた。同氏は現在の同志社ハワイ寮の寄附者であり、またフレンド・ピース・スカラシップ制度の創立者であるセオドラ・リチャーズ博士の子息でホノルル実業界の第一線に活躍している温厚な紳士である。同氏は同志社のことやハワイ寮のことについては昭和十一年ごろ同寮の献堂式に参列した両親から聞いてよく知っており、なつかしく思っている。たしか医者住宅を改造したもので、すでに相当老朽していることと思う。私も是非、一度訪ねてみたいところだが、この春ごろ、あるいはその機会を得るかもしれない。もし同志社に改造の意志でもあるときはその計画とか費用などを知らせてほしい、私もできるだけの援助はするつもりだがと非常に好意的であり、今回の同志社学生のハワイ訪問もよい企てであると賞めてもらった。事実ハワイ大学との第二試合は特に同氏の好意で、メンバー制のオフ・カントリー・クラブを使用させていた。

なお、同志社人ではないが、ハワイ大学との定期戦のことなどについて、私はハワイ大

学の総長室でハミルトン総長とも話しあった。合衆国とアジアとの中間にあり、両方の交流点として、東西文化センターなどの重要な施設などもつただけになかなか物わかりのいい、立派な体格の総長であった。私も、京都は国際会議場も設置され、世界の人たちの必ず訪ねる都市であり、その京都の同志社は、またそうした人たちの交流点でもあることから、両大学の交流もスポーツだけでなく将来は文化から學術の面にまで及ぼしたいと強く希望しておいたが、総長も非常に結構なことであるから出来るだけ実現するように努力しようとなかなか力強く握手してくれた。

ハワイの言葉

ハワイ人口の四〇%近くをしめる日系人たちの用語も、二世から三世の時代になって完全に英語化されている。かつては盛んだった日本語学校に通うものもほとんどなくなったという。この点、今回行った学生たちも語学力の貧困さを痛感していた。もっと語学を勉強しなくては、今後の国際的な場では無力であることを覚ただけでも大きなプラスである。ハワイ大学の学生とコースを廻つても、

ゴルフ用語だけで何とか通じたものの、興味は半減されたと思う。どこに泊っているのかと問われて、前日招待されたロイヤル・ハワイアン・ホテルの名をいって、今晩誘うから何号室かといわれてやつと間違いに気がついたものもある。パイナップル串で熟したやつをむきほり食っていたとき、ユウ・ヘビイターといわれてどこに蛇がいるノクと飛びあがったものもある。これは大食漢(Heavy eater)の聞きちがいであった。とにかく、ゴルフがゴルフで、トマトがトマト式の鼻にかかったピジョン・イングリッシュを耳で理解する

純欧風銘菓

ホームメイドクッキーズ



泉屋

のは無理かも知れないが、まだ他にもかくれた言葉の珍談もあったことと思う。メートルがマイル、温度も摂氏が華氏、地価も一フィート平方いくらと単位もちがう。二世の商店でこれ二〇円だが、一〇円にまけてあげろといわれて喜んで礼をいったら一〇円は一〇ドルだったなど——やはり海外に出るにはいろいろ事前に勉強しておくことが必要だとわかったらしかった。そのほかハワイについては到着した翌日、真珠湾にアリゾナ・メモリアルを訪ねて海底に眠る戦歿戦士にレイを捧げ、カワイ島で二時間ほど、マワイ島で



露西亜菓子 チョコレート

ヴォルガ

京都市中京区竹屋町通東洞院角
電話 23 0829・1496 番
出張店 新京極花遊小路

午後のひとつとき、オアフ島では元旦に日本総領事館の新年祝賀式に参列したのち、島めぐりといわれ、時速一〇〇軒ぐらいのスピードで見せてもらった程度で、ほとんどゴルフに明け暮れた旅行であった。もちろん、観光にきたのではなく、目的のスポーツを通しての日米親善とハワイ大学との交流、日系その他の人々との交歓などの成果は十分に果してきた。また学生諸君をはじめて故国をはなれて、遠くからみた日本のことなど見聞を深めると同時に得るところもまた多かつたことと信じている。
(経済学部教授・体育理論)

軸冊製造 掛短冊 額紙書画 卸美術品



山北光運堂

京都市下京区河原町松原南
電話 35 4212 番
東京出張所 東京都台東区谷中初音町4の1
電話 21 1043 番

同志社界限

和田敏

同志社界限と言っても横には広い地域にまたがるし、縦には長い時代の経過があり、書き出せば随分広い範囲にわたることになるから、同志社周辺の町内をかげ足でめぐり、この二頁を満たしたい。

石橋、岡松、御所八幡

同志社の位置が薩摩藩邸址に当る、と言う表現は、同志社がまた小さかった半世紀前のことで、今の大同同志社構内の中で、薩摩邸はその一部分に過ぎない。構内も今では、西から岡松町、御所八幡町、相国寺門前町、新北小路町、石橋町、玄武町、常盤井殿町などの全部及び一部を含む地域を占めている。

烏丸今出川市電停留所の西側一帯を岡松町と言うが、この町は烏丸通を越え彰栄館のあるところまでも喰い入っている。また同志社中学門前を西を抜ける保護観察所前の道路

を、以前は石橋通と言って、この路は室町から東へ、今の明徳館前、弘風館北側を東にまっすぐに抜けて相国寺惣門と今出川御門とをつなぐ南北の通りに丁字形につながっていた。

相国寺門前あたりに小川があり石橋がかかっていた様子で、このことは応仁記にも載っている。現在ではこの石橋通の上に(新)神学館が建っている。彰栄館が岡松町に在ることは述べたが彰栄館の北方、運動場の烏丸通に面したところは御所八幡町で、同町は元の中学北寮、今の新高記念会館別館から大聖寺を経て中学正門前モナミ喫茶店のところまでひろがっている。

室町幕府のあつた頃は烏丸通も無く、足利氏の花の御所、岡松御殿があつた。その岡松殿の屋敷内に御所八幡社があつたらしい。町名はそこからきている。今の岡松町は石橋通

の片岡図子と、烏丸通に面した一本松町とが合併し、明治二年往昔の岡松殿に因んでつけられた名である。一本松町であつた頃は烏丸今出川電停西側のあたりに千家十職の一人、飛來一閑が住んでいた。

今出川、玄武、新北小路

今出川町は烏丸今出川西北隅の元文堂書店から西を慶長初年頃、今出川西町と言い、東北隅の玄武町巡查派出所から東を今出川東町つた。今は大学院(元華族会館分館)から東へ栄光館正門の少し東方までが玄武町である。新北小路町は明徳館、弘風館、致遠館の敷地とその周囲の極くせまい地域で、前にあげた石橋通と今出川通との中間に短かく東西にあり、東は相国寺門前通、西はおよそ明徳館の西限まで。財団法人同志社の事務所(本部)はこの新北小路町六一二番地に元があつた。この町は維新前は「お附」と称し、幕府が禁裏に附けた下級武士の長屋があつた。

烏丸通り

今出川通から北の烏丸通は大正の中頃までは狭い道路で、現在の市電線路の東側の車道の中に近い路巾であつた。しかも北は京都の北海道と言はれた上立売で突当り、それより

北へ行こうと思えば室町通へ出ねばならなかった。烏丸今出川上る西側のパチンコ屋の敷地は烏丸今出川西へ入るところから北へ這入る路次内にあつたが烏丸拡張で表に出た。その北のクローバー喫茶店と撞球場のところに銭湯があり、更に北へ上つて西へ入る角に沢山書店、ついでに更に西へ入ると、今の保護観察所のところに、後になってからであるが、白亜寮という大学生の共同私設寮があり、その西側に西寮が昭和十二、三年頃まであつた。西隣り森田家は西寮テニスコートの址である。

大聖寺から道路を隔てて南の一帯には宣教師邸があり、カーブ先生がおられ、東北角には中学の公舎があり、藤田万右衛門先生や今井隆吉先生、久永機四郎先生が住まわれた。そのあとは後に今林写真館になつた。

今出川と鶴橋

碁盤の目といわれる京都に珍らしく、鍵の手をいくつも重ねたような曲りくねつた通りが以前の今出川通であつた。烏丸から室町までを北小路通と言ひ、室町で突当りちよつと南を西へ行くと新町から少しぐれぐれとなり西陣市場を西に突当れば兼康町である。そこ

から北または西へ抜け、堀川から須磨町通である。さらにまた二カ所ほど突当り千本通でも突当るので、糸屋町通だとか元今出川通の名が現在も残っている。

現在、北小路通と言うのは西本願寺の近くにあるが、今出川室町の東だけを北小路通といつたのは、西南角の松田医院から南へ、校友の磯田さん宅（元藤井博士宅）辺りまでに北小路御殿といつた足利氏の別殿が在つたからである。また東側北角ロイド理髪店の北側に今出川殿ともいつた菊亭（元侯爵）家の邸があつたという。

今出川通の名の起原となつた今出川は加茂川が源流であるが、その分流が上御霊神社前から南下し、相国寺北門前町の東で二つに分れ、一つは相国寺境内へ、他の一つは寺町通を南下し、今出川通を東へ流れる、寺町と河原町の間二百米程の短い間にあつた川の名で、現在は暗渠となつて市電線路下にある。

鶴の渡せる橋に置く霜の

白きを見れば夜ぞ更けにける
の古歌は無論中国の古事によつたものであろうが、今出川にも鶴橋と言うのがあり、その橋は寺町今出川曲り角に東西に架した一枚の

石橋であるといひ伝える。石橋屋と言う蒲鉾屋が近年まで橋の北側に在つた。その石橋も今は無くなつてゐるが、それでも近所に鶴湯と名乗る風呂屋が今もあり、昔の名残をとどめてゐる。この鶴橋のかかつていた川が今出川であると言うのが今では通説のようになつてゐるが、これとは別に、アーモスト館前や図書館横を北から南へ流れた小川（現在暗渠）が今出川であるとの異説もある。この流れが現在のように御苑の中に流れ込まず、西へ今出川通に添つて流れてゐたのかもしれない。

室町幕府の北限は室町小学校あたり、南限は今出川で、烏丸今出川はその東南角であつたことは周知のこと、その外壁に添つて堀があつたことも知られてゐる。するとその堀に注ぐ川があり、それを今出川と言つたのかもしれない。そうだとすると室町辺から東へ、現在の御所今出川御門までの約三百米を今出川と言つたとも考えられる。以上古い校友同窓に母校のことを想ひ出してもらうとすがとなれば幸である。

（元和田靴店主）

（編集の都合上、相当部分を削除しました）（編集部）